

文部科学省  
教員養成の在り方に関する勉強会

2011. 1. 27.

武田信子（武蔵大学） 矢野博之（大妻女子大学）  
横須賀聡子（水戸こどもの劇場）



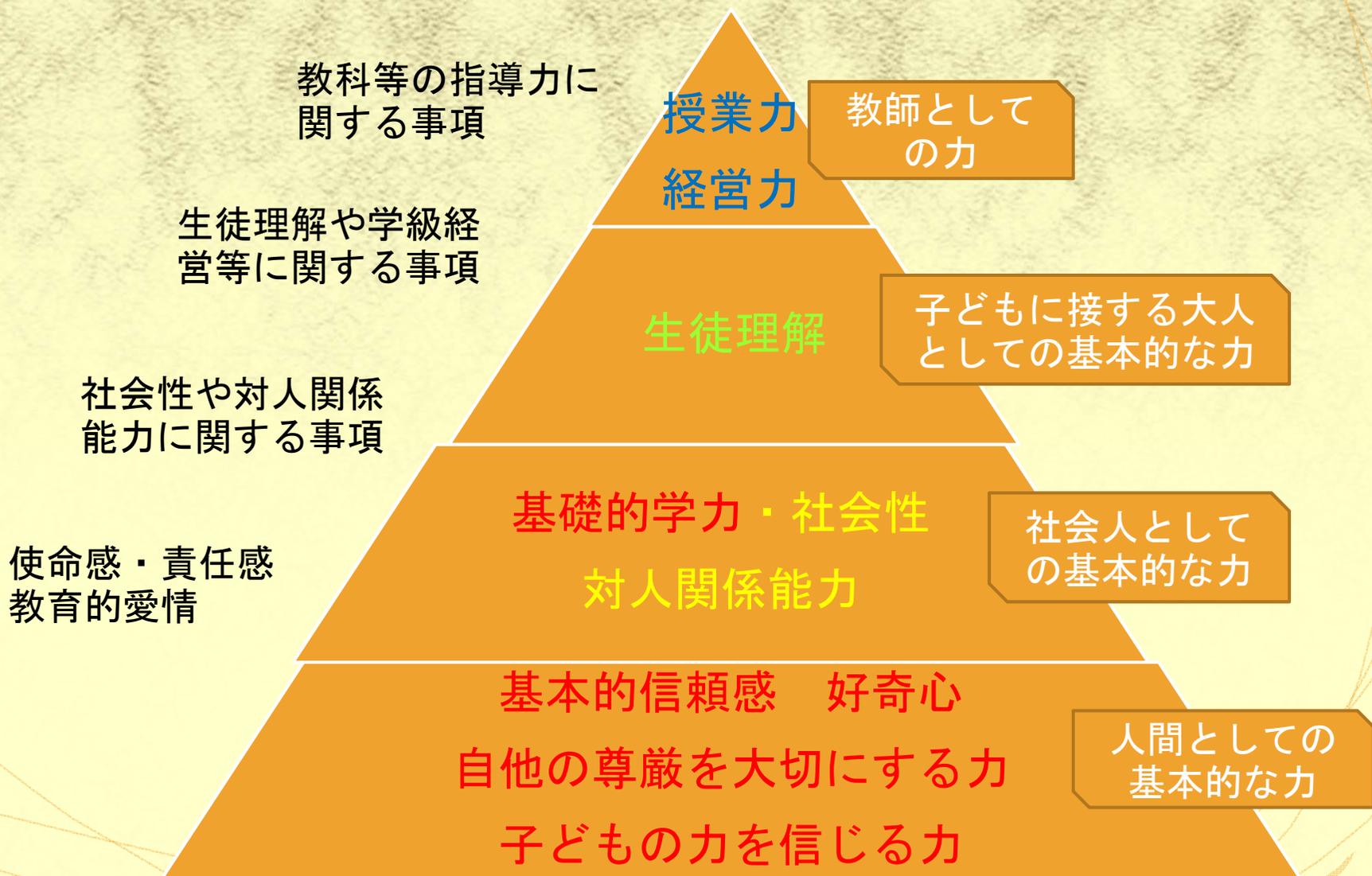
**今から15年後、  
2025年はどんな社会？**



# その社会では どんな人のどんな力が必要だろうか？

- 人口構成・自然・コミュニケーション・食と水
- 学校はどうなっている？
  
- 生きるために必要なものは何か？
- 日本人にとってのキーコンピテンシーは？
- 学校教育の果たすべき役割は？  
その役割を果たせる人はどういう人？
  
- 国の政策は？
- そこで文部科学省スタッフの役割は？





教科等の指導力に関する事項

授業力  
経営力

教師としての力

生徒理解や学級経営等に関する事項

生徒理解

子どもに接する大人としての基本的な力

社会性や対人関係能力に関する事項

基礎的学力・社会性  
対人関係能力

社会人としての基本的な力

使命感・責任感  
教育的愛情

基本的信頼感 好奇心  
自他の尊厳を大切にする力  
子どもの力を信じる力

人間としての基本的な力



# 教職大学院で何が起きるか？

- 教員養成の長期化は、効果的ではない（OECD）
- 現場に初心者が入るのは、子どもにとって問題
- 院生数に対応できる大学・教員の不足
- モラトリアム学生のたまり場
- リフレクションのできない大学教育
- 地方と都市の状況の差異
- 現場と大学の連携の困難さ

→リアル熟議の表を見ながら検討



大学院で  
初任研

## 教職大学院で教育を学ぶ 教員は専門職！！

- 一般学士（社会人を含む）
- 教員養成4年修了者
- 難しい国家試験⇒生活の保障 インセンティブをつけて、尊敬される職業に＜地位の向上＞
- BASIC+資格コース制で特色ある教員を養成

## 学部4年間は専門分野の学びを深める

- 卒論が書ける、研究ができる学生、体験豊富な学生を育てる。
- 基礎的学力、専門的学力を身につける。
- 職業選択の目を養う。



# 教職大学院に入るためには

- 就職できない人ではいけない。
- 社会人優先枠を設ける（2－3割）
- 専門（卒論など＋小中高共通でセンター試験一定レベル以上など）
- 一般教養・人権感覚
- 実技・ワークショップ観察・面接

⇒A合格：1年コース

B合格：2年コース

つまり、実質的には採用試験

# 教職大学院の教育

- 教師教育者（大学教員＋実務家教員＋指導教諭（有資格：教師教育認定教員））
- 教職系大学教員は教職大学院教員に移行
- 指導教諭にはポイント制で、休暇・大学院・資格を得るメリットを。
- 大学教員は教員研修できる存在に（更新制の拡大化＋リフレクション（≠反省・雑談）の促進



# 教職大学院生の生活

- 生活の保障（パートタイム教員） 奨学金免除は撤廃

## < 2年制コースの場合の例 >

- 1学期 基本理論や準備
- 2学期
  - 2日勤務：特支1カ月以上を含む3か所以上における勤務（観察）
  - 3日大学：理論と結びついたリフレクション演習等
- 3学期
  - 3日勤務（実践） ・ 2日大学 ▪ ここで進級試験
- 4学期
  - 3日勤務（担任：見習い） ・ 2日大学
- 5学期
  - 3日勤務（担任：一人） ・ 2日大学
- 6学期
  - 3日勤務：継続的に現場実践
  - 2日大学：論文執筆 まとめ



# 教職大学院を修了するには

- 単位は厳しく「尊敬される職業」に。
- 基礎コース＋特別資格コース  
発達障害・ソーシャルワーク・イェナプランなど各大学の特色で設置
- 修士論文＝実践報告＝当事者研究
- 生徒や同僚（同級生）からの評価を含む



# 幼児教育＋保育士養成は分離

- 教員養成の高学歴化と乳幼児教育は相容れない。
- 乳幼児教育は特別な力量を要する
- 乳幼児期から「学校教育」による早期教育は、発達上望ましくない。
- 幼少連携は、小学校に幼稚園を合わせることではないはず。



# 教育サポートセンター改革

- 教員研修センターを改組
- 財団（第三者機関）形式のサポートセンター
- 職員は民間研究者＋現場の若手教員
- 教員OBはボランティアで



# 注意！

- 文部科学省職員や議員の出身大学の教職課程は、かならずしも日本の教職課程の標準の状況ではない。

←かなり多様な日本の教員免許授与の実情

- 教員 3 分の 1 交代の時期になすべきこと
- 現職出身教員の活用の工夫
- 大学現場情報の収集

批判ではなく現行大学にとって何が問題となるのか、どうしたらいいかを提言させる。

